

## 犬山城跡（いぬやまじょうあと）

- 1 所在地 犬山市大字犬山字北古券 65 番 3 外 51 筆等
- 2 面積 45,905.63㎡
- 3 概要

犬山城は、城山と呼ばれる独立した丘陵を中心として築城されており、元和3年（1617年）に尾張藩の付家老であった成瀬正成が将軍家から拝領した城として、史資料群とともにこれまで守り伝えられてきた。

平成20年度の地形詳細測量を契機として、これ以降、建築史学、城郭考古学、文献史学、歴史地理学などの総合的な調査が行われた。建造物の調査では、天守の創建年代が室町時代末までさかのぼる可能性があること、また近代に移築された門や櫓などが、文献調査や現地調査から、かつて犬山城の城門や櫓であったことが立証された。城郭考古学による調査では、大手道で複数の外柵形を備えた構造（大手道に対して複数の門が建ち、それぞれの門から各郭に接続する構造）が確認された。発掘調査では、「切岸」「箱堀」など、犬山城の強固な防御施設に関する遺構が確認され、また近世の絵図に示されたとおりに堀や土塁の痕跡が検出された。文献調査では成瀬正成が犬山城を拝領した後の整備や修理の詳細、そして明治維新後の犬山城の状況を確認することができた。歴史地理学の調査では犬山城及び城下町の変遷について分析がおこなわれ、築城後に台地上と崖下の隣接する2つの集落が拡大して1つの城下町を構成するに至ったことや、成瀬期に主軸道、大手口、及び城郭が一直線に並ぶ「タテ町型城下町」が完成したことが明らかにされた。

これらの総合的な調査結果から、犬山城の城郭史、建築史、都市史上の価値が学術的に立証された。特に戦国期から近世に至る間の、城郭として整備されてきた遺構が良好に存在することが明らかとなった。今回史跡に指定され、国宝である天守とともに保護がはかられていく中で、これまでわかっていなかった犬山城の特徴を知ることができるだけでなく、近世城郭の成立過程を具体的に解明できる可能性がある。

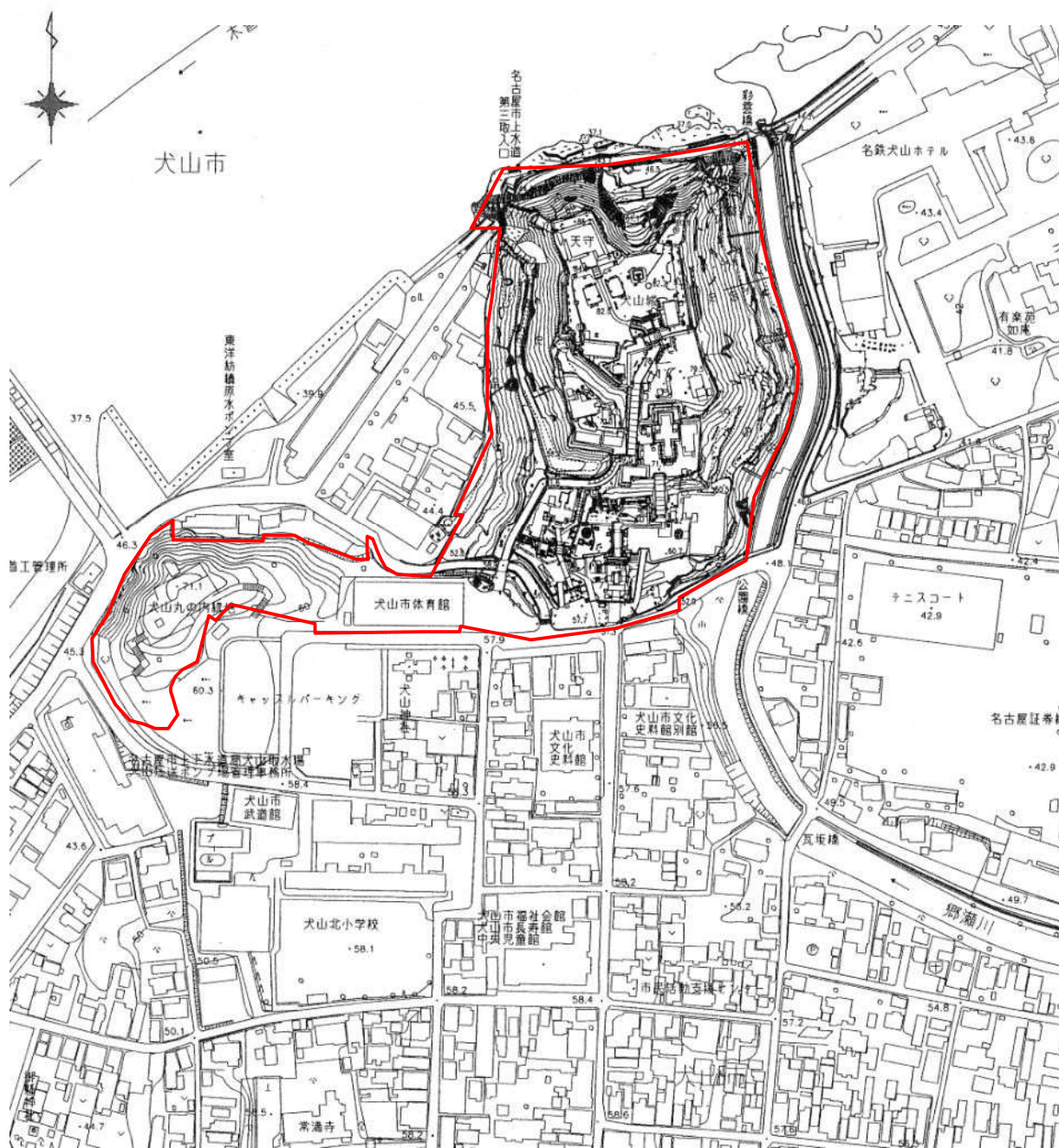


全景写真 木曾川対岸から（犬山市教育委員会提供）



石垣及び櫓形跡（犬山市教育委員会提供）

# 指定の対象地域の範囲を示す図



凡例

: 新規指定史跡範囲

